

## 山形県フォレスター連絡会議を開催しました

令和5年2月16日(木)、山形県森林研究研修センター(寒河江市)で、山形県フォレスター連絡会議を同センターとともに開催しました。

連絡会議は、山形県森林研究研修センター、村山、庄内、置賜、最上各総合支庁、農林大学校と、山形県内の山形、庄内、置賜、最上各森林管理署とが参加して毎年開催しています。

当日は、それぞれから、森林総合監理士等による普及活動や、研修プログラム、民有林・国有林が連携しての検討会等の実施状況等を報告しました。

午前に行った意見交換では、森林整備推進協定の運用の状況や課題、国有林における大苗の植栽の状況、国有林の生産事業と連携した民有林からの出荷の可能性、立木販売箇所買受け者が近辺の民有林も同時に伐採搬出を行っている事例等を共有することができました。

また、午後からは、普及活動等に携わる職員の技術力向上を図るため、各署等をオンラインでつないで、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林業工学研究領域収穫システム研究室 瀧誠志郎主任研究員から「森林資源調査におけるICT技術活用の最前線 ～林業DXとデジタルツインの世界～」と題する講演をいただきました。

講演では用語の意味から丁寧に解説をいただきながら、デジタル化とイノベーションが、デジタイゼーション、デジタルライゼーション、デジタルトランスフォーメーション、デジタル最適化と進んでいくことや、デジタル化の成果を林業現場で「本気で活用した事例」が待たれること、納品された成果を充分理解して活用していく上で「発注者側のわかる人」の育成確保が重要であること、といったお話を学ぶことができ、意義あるものとなりました。

民有林と国有林の緊密な連携が多岐にわたって求められる中、当署では、引き続き、連携を強化しながら、林業の成長産業化や「やまがた森林ノミクス」の推進に努めていく考えです。

